

松江市南部・東出雲町・八雲村・玉湯町・宍道町

大橋川を見おろす大きな古墳 石屋古墳

 松江市矢田町
 <指定>国・史跡
 大橋川の南側、東光台住宅団地の東端にあり、公園の一角に整備されている。一辺240m以上の方墳で、古墳時代中期に造られたもの。高さは8m弱だが下から見上げるとそれ以上に高く感じさせる。大橋川を見おろすように造られている。すでに発掘調査が行われていて、人物土輪や多数の円筒埴輪が発見された。
 <交通> J R 松江駅からバス15分 矢田下車、徒歩10分

水の都の情緒深く 青柳楼の大灯籠

 松江市瀬町
 宍道湖大橋の南詰めには、日が暮れるころ明かりを灯す大灯籠がある。来待石製で高さ約6mの石灯笼は、明治の中ごろ、当時の料亭・青柳楼 現在の市立病院付近の庭に建てたもの。庭に建つ灯笼は宍道湖の波打ち際にあり、入り江の灯台としての役割も担い、松江の名物の1つとして知られていた。宍道湖沿いの公園の一角に置かれ、夕刻からは宍道湖に沈む夕日とマッチする。
 <交通> J R 松江駅から徒歩15分

あ、こんな所に古墳が 乃木二子塚古墳

 松江市上乃木町
 <指定>県・史跡
 9号線バイパス、運動公園付近の高架橋のすぐ脇にあり、道路からでも眺められる古墳。古墳時代の中ごろに造られた前方後方墳で全長約40m。大型店や住宅地の中にぽつんとあるが、かつてこの付近にはたくさん古墳があり、その1つがここ。墳丘の途中に段がついている様子がよくわかる。
 <交通> J R 松江駅からバス20分 運動公園入り口下車、徒歩5分 <いにしえ> 3巻P26

「松江」を作った堀尾家の墓はここ 円成寺

 松江市栄町
 <指定>市・工芸(六角地蔵灯笼ほか)古文書
 9号線白湯付近から旧国道にはいると道沿いに落ち着いたお寺がある。江

戸時代のはじめごろに松江藩主であった堀尾忠晴をはじめ、家臣の墓がある。初代住職の春龍は「松江」という地名の名付け親ともいわれる。寺宝として木彫の堀尾忠晴像など、堀尾家ゆかりの遺品がある。灯笼に六地藏をもつ「六角地蔵灯笼」(高さ2m)は吉晴時代に来待石でつくられた珍しいもの。美術的、歴史的にも注目されている必見の文化財。連絡すれば見学可。11月6日(堀尾家法要)は一般公開。
 <交通> J R 松江駅からバス15分 栄町下車、徒歩5分 <連絡先> 0852-21-2494

文化財がいっぱい 迎接寺

 松江市八幡町
 <指定>県・絵画、工芸(香炉箱・銅鐘ほか)
 武内神社と国道9号線をはさんで真向かいにある。かつては平浜八幡宮に付属していた6寺の1つだが、ここだけが現存している。室町時代の仏具や書画が寺宝としてたくさん保存され一部が県立博物館に展示されている。天正3年(1575)鋳造の銅鐘はぜひ見ておきたい。迎接寺の近くにある場池付近から、山陰の弥生土器の代表選手「的場式土器」が見つかった場遺跡があった。
 <交通> J R 松江駅からバス30分 武内神社前下車、徒歩5分 <連絡先> 0852-37-0681

「長寿祈願」でラッシュ 武内神社 平浜八幡宮

 松江市八幡町
 <指定>県・彫刻(木造神馬)工芸(刀)考古(細形銅剣)
 8月31日の「たけうつつあん」の祭り(大祭日)は、夜店が建ち並び夜遅くまでにぎわう。長寿で有名な伝説的人物武内スクネを祀るため、長寿祈願の参拝者があつとたたない。屋根を長くなだらかに伸ばした本殿は、何とも言えず美しい。また、この付近の水田から出土したと伝わる、弥生時代の細形銅剣を所蔵。現在は風土記の丘資料館で展示中。
 <交通> J R 松江駅からバス30分 武内神社前下車すぐ <連絡先> 0852-37-0435

1700年を超えてお引っ越し 寺床遺跡移築館

 東出雲町
 東出雲町立運動公園の入口にある建物には、町内で発見された寺床1号墳の埋葬施設が場所を移して、展示されている。この古墳は古墳時代前期(4世紀ごろ)に造られた方墳。弥生時代の墓の要素を残しており、発見当時は注目を集めた。移築館には、発掘当時のパネル写真も飾られている。通常は施設されているため、見学は事前に町教育委員会に連絡が必要。
 <交通> J R 揖屋駅から徒歩20分 <連絡先> 0852-52-6713(東出雲町教育委員会)

黄泉の国と関係するののか? 揖夜神社

 東出雲町揖屋
 <指定>県・古文書『出雲国風土記』に伊布夜社として記載され、黄泉の世界と関係があったと考えられている古社。本殿は大社造りだが、神座が出雲大社とは反対を向いているのも意味がありそう。扉には五色の極彩色の神事の障壁画が描かれている。8月28日の穂掛祭は、豊作豊漁と海上安全を祈願し、美しく飾った舟行列が続く。
 <交通> J R 揖屋駅から徒歩10分

月山落としの本拠 京羅木山

 東出雲町上意東
 揖屋駅の南方5kmにそびえる標高473mの山。『出雲国風土記』に記された高野山がこの山かと言われている。戦国期には月山富田城と対峙して、尼子氏攻略の拠点とされた。山頂からは眼下に広瀬町の町並みが広がり、島根半島を隔てて中海・日本海はもちろん、隠岐島まで眺望できる。
 <交通> J R 揖屋駅から車15分、ぶもとから徒歩40分 山頂 <いにしえ> 5巻P11

古墳もあるぞ 雨乞山

 八雲村東岩坂
 松江市と東出雲町、八雲村との境に位置する山。見る場所によっては円錐形で、非常に美しい。古来から信仰の対象とされてきたようで、古墳時代には、古墳も造られている。こ

の古墳は、雨乞山古墳と言われる方墳。古墳時代後期に造られた石棺式石室の整美な石室だが、風化が著しく残念。
 <交通> J R 松江駅から車30分

出雲一の宮 熊野大社

 八雲村熊野
 <指定>県・古文書
 意宇川の上流に鎮座する神社。歴史は古く、平安時代までは出雲大社より上位にランクされていた出雲一宮。朱塗りの神橋を渡り、石段を登ると正面に拝殿、舞殿があり、大社造りの本殿はこの奥にある。また出雲大社の新嘗祭で使われる火を、古来から伝わる方法で作る鎮火祭が行われる建物もある。鎮火祭は毎年10月15日。毎4月13日にはスサノオノミコトとイナダヒメの故事にちなんだ御櫛祭が行われる。隣接している保養センター「熊野荘」で温泉には入れるのもうれしい。
 <交通> J R 松江駅からバス40分 熊野大社前下車すぐ <連絡先> 0852-54-0087 <いにしえ> 6巻P9

伝統の和紙作りを伝える 安部榮四郎記念館

 八雲村岩坂
 国道432号線沿いに伝統の紙すきを行っている「出雲和紙の里」がある。出雲和紙は江戸時代に作られたが、明治期からは衰退した。しかしその伝統は1968年に人間国宝に指定された安部榮四郎によって、再び花開いた。この記念館では重要無形文化財「雁皮紙」の技術保存に一生を捧げた安部栄四郎の生涯を紹介するとともに、紙に関する貴重な資料、栄四郎と親交のあった棟方志功やバーナード・リーチらの作品が展示してある。付近には実際に和紙作りをしている所もあり、見学できる。記念館の隣りにある「手すき和紙伝習館」では、和紙作りを体験できる(有料・要予約)9時から4時半。火曜休館(祝日の場合は翌日休) 大人500円、小中学生200円。
 <交通> J R 松江駅から岩坂別所行きバス30分安部榮四郎記念館前下車、徒歩2分 <連絡先> 0852-54-1745

竹を割ったような石棺 徳連場古墳

 玉湯町玉造
 <指定>国・史跡
 玉造温泉街から東へ少しはいたた丘陵上、出雲玉作資料館の北側にある。もとは直径10mに満たない小さい円墳であったと考えられている。現在は石製の棺が露出しているが、これは他に例の少ない「割竹形石棺」というもの。石棺内からは、鉄剣が出土したという。
 <交通> J R 玉造温泉駅からバス8分 玉造郵便局下車、徒歩10分 <いにしえ> 3巻P27

横穴墓のすぐれもの 岩屋寺跡横穴墓群

 玉湯町玉造
 <指定>国・史跡
 玉湯川左岸の斜面に掘り込まれた横穴墓群で、現在は2穴が開いている。どちらも砂岩に掘り込まれた横穴墓で、丁寧に加工されたあとがよくわかり、天井や部屋の中は家形に加工されている。1号穴は前後2つの部屋からできているのに対し、2号穴は単室。遺体を置くベッドが作り付けられていたり、当時の高度な加工技術には驚くほど。
 <交通> J R 玉湯温泉駅から車10分

当時の姿でパッチリ残った 玉造築山古墳

 玉湯町玉造
 <指定>県・史跡
 玉造温泉バス営業所の後ろで民家が密集している中にある径約15mの円墳。通称「白粉石」と呼ばれる白っぽい石をくり抜いて造られた「舟形石棺」が2基、当時のままに保存されている。先端は舟のへさきのように尖っている。このような石棺が完全な形で残っているのは珍しい。遺物は出雲玉作資料館で展示。
 <交通> J R 玉造温泉駅からバス10分 玉造営業所下車、徒歩5分 <いにしえ> 3巻P27

宍道湖を見おろす 報恩寺古墳群

 玉湯町湯町
 <指定>県・史跡
 鳥ヶ崎付近の「J R 山陰本線沿い、報恩寺の裏山にある古墳群。今でも形がよくわかる前方後円墳を含む6つの古墳がある。ここからは宍道湖の眺望がよく、古墳が造られたころは宍道湖沿いに堂々と目立つ古墳であったと想像できる。報恩寺には県下の長谷

がたかんのんぞう型観音像の中ではもっと大きい、4.22mの観音立像(県指定文化財)がある。
 <交通> J R 玉造温泉駅から車5分 <いにしえ> 1巻P14

日本でここだけ、「玉」のテ・マ館 玉湯町立出雲玉作資料館

 玉湯町玉造
 <指定>国重文・考古(玉作遺跡出土品)
 玉作りに関する全国唯一の博物館。常設展示には「古代の玉作り」をメインに、町内で現在も行われている近代めのう細工や、布志名焼の歴史について展示している。いろいろな玉の作り方や用途について模型などを使いわかりやすく解説してある。古代玉作りに使った砥石や色鮮やかな勾玉の原石や作りかけの未完成品など、珍しい遺物が豊富。入口のホールに飾られている大きな碧玉「青めのう」の原石は、背後の花仙山産のもので圧巻。そばには史跡公園や遊具もあり、家族連れにもおすすめ。9時から5時。月曜、祝日の翌日休。200円。
 <交通> J R 玉造温泉駅からバス8分 玉造郵便局下車、徒歩10分 <連絡先> 0852-62-1040 <いにしえ> 1巻P14

グリーンが広がる歴史公園 出雲玉作史跡公園

 玉湯町玉造
 <指定>国・史跡
 玉作資料館前にある、青々とした芝生が広がる公園。ここは古代の玉作りが盛んだったムラの跡で、現在、史跡を公園として公開・活用している。広い園内には発掘調査で発見された玉作工房跡の様子を復元した住居跡や、記加羅志神社跡古墳などがあり、整備されている。玉作りの盛んな町のシンボルだ。
 <交通> J R 玉造温泉駅からバス8分 玉造郵便局下車、徒歩5分 <いにしえ> 1巻P14、5巻P31

社室はやっぱり玉作り関係品 玉作湯神社

 玉湯町玉造
 <指定>国重文・考古(玉作跡出土品)
 玉造温泉街の奥、『出雲国風土記』をはじめ、古文書に記載された古社がある。社室として玉の半製品や砥石など、製作に関わる遺物が多数所蔵されている。ほかに不昧公ゆかりの采配や、玉造城城主佐々木氏の陣太鼓などもある。これらが納められている収蔵庫は、予約をすれば見学も可。

<交通> J R 玉造温泉駅からバス10分 玉造温泉下車、徒歩5分 <連絡先> 0852-62-0006 <いにしえ> 1巻P14、6巻P20

丹念に積まれた石の部屋 林43号墳

 玉湯町林村
 国道9号線鳥ヶ崎の国民宿舎付近から南へはいたた山の中にある。このあたりは前方後円墳を含む50基からなる大古墳地帯。その中の林43号墳(前方後円墳、全長18m)は、道路を広げるため近くに移築し復元された。これは古いタイプの横穴式石室で、丁寧に積まれた石の部屋を実際に見ることができる。説明板もあり、わかりやすい。
 <交通> J R 玉造温泉駅からバス10分 鳥ヶ崎下車、徒歩20分 <いにしえ> 7巻P12

いかにも前方後円墳 椎山1号墳

 宍道町白石
 <指定>県・史跡
 9号線の南側、大型農道をすこしは入り込んだ所にある。農道沿いに看板があり、順に行くのとどろつけ。古墳時代後期に造られた前方後円墳で、横穴式石室が内蔵されている。周辺には円墳など、墳丘の形が観察しやすい古墳が集まっている。
 <交通> J R 宍道駅から車10分 <いにしえ> 3巻P28

巨大な石のお宮さん 石宮神社

 宍道町白石本郷
 <指定>町・史跡
 9号線白石バス停から1kmほど南に行くと、鳥居の両側に巨大な石がある神社が見えてくる。ご神体の石は『出雲国風土記』に掲載されている「石になった犬(犬石)」とも言われるが、宍道町白石にある「夫婦岩」にあてる説もある。古墳時代にはこの神社にあるような巨石(玉石)を加工して石棺を造っていたらしい。石の大きさには感動するが、これを加工して古墳を造った人びとにはもっと感動する。
 <交通> J R 宍道駅からバス10分 白石下車、徒歩15分 <いにしえ> 5巻P43

刻まれた浮き彫り模様がお見事 鏡北廻古墳

 宍道町東来待
 玉湯町と宍道町の境の小さな谷に面した7世紀ごろの古墳で一辺10mほどの小さな古墳。地元の来待石の切石を使った石棺式石室。内部は家型に加工され、入口をふさぐフタ石(閉塞石)の表面には、かんぬきを意味する「卍」の浮き彫りがある。この見事な浮き彫りの模様は、全国的にも珍しい。
 <交通> J R 来待駅から車10分、山道を徒歩10分 <いにしえ> 1巻P24

街道のサービスエリア 伊志見一里塚

 宍道町伊志見
 <指定>国・史跡
 宍道町と斐川町の境のあたり、国道9号線の南側にある旧道沿いに、ごんもりとした塚が見える。これが旧石州街道の「一里塚」の跡。直径4、5mの塚は道路をはさんで南北に向かい合う。かつては塚の上には幹周りが3m近い松が植えられて旅人が旅の目印にし、休憩をする場所でもあった。今ではサービスエリアということ。1956年の台風で折れてしまい、今はない。旧藩街道沿いに一里約4kmほどにあった一里塚も、今は県内に3カ所しか残っていない。
 <交通> J R 宍道駅からバス10分 伊志見下車、徒歩1分

ポイントいっぱい 伊賀見古墳群

 宍道町白石
 <指定>県・史跡
 宍道湖からすこしはいたた低い丘陵上、宍道中学校の東にある。長さ6mの横穴式石室で、壁はすべて来待石を切り出して使用している。この石室のちににち出雲地方独特の「石棺式石室」になっていったと考えられている。内部を仕切る石があるところなど、九州からの影響もある。入口を閉ざす閉塞石にはかんぬき状の浮き彫りが見られるなど、観察ポイントがいっぱいの古墳。近くに案内板あり。
 <交通> J R 宍道駅から車5分 <いにしえ> 3巻P28

おたつき情報

宍道町といえば石の町。この町の隠れた文化財が、東来待の久戸千体地蔵だ。苔むした来待石の崖に、百体以上のお地蔵さんがずらりと並び姿には、思わず手を合わせたくなる。